

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



三京 正秀

柔整師・鍼灸師は、今後スポーツに限らず、介護などの場所でも、とても大事な役割を担うことになると思います。

私自身になりたい人物像は、“人に感謝される人”。これは常にブレることなく目指していきたいと思っています。

そして、経営者としても頑張って、将来は海外で仕事をしたいという、大きなビジョンも持っています。



鍼灸学科在学中に柔整の魅力も知り、卒業後、柔整学科に内部進学。在学中、鍼灸師の資格を生かして、IGLの近くの接骨院でアルバイトを続け、施術の経験を積みながらスキルアップを図ることができました。さらに、飲食店での接客のアルバイトも掛け持ちし、ここでは「内気だった」と語る自身のコミュニケーション能力が、大きく向上。卒業後は、母校の近くにメディカルトレーナーCLR接骨院を開業。CLRとは、Create Love Ringの頭文字。人との出会いの繋がりの輪を大切にし、笑顔と信頼を届ける治療がモットーです。そして、かつてサポーターがあればと願った自身と同年代の、中学高校の後輩スポーツ選手のケアも担います。

現在は、鍼灸・柔整師の活躍の場が、もっと幅広く、社会からの認知度も高まるためにはどうすればよいか、業界や資格者全体のことも考える日々。鍼灸・柔整師は、理学療法士

と比べると存在意義が不明瞭で、世の中に伝わっていないのでは、と感じる三京さんは、この解決には、国家資格ゆえに、国のサポーターも必要では、と考えています。認知度が上がることで、治療院や資格者の、医療機関・医療従事者としてのイメージ確立を願っています。



9 三京 正秀さん

メディカルトレーナーCLR接骨院 院長

■鍼灸学科 2011年卒業 8期生

■柔整学科 2014年卒業11期生

人に感謝される人を常に目指して。

鍼灸・柔整師の活躍の場が、もっと幅広く、社会からの認知度も高まるためにはどうすればよいか考える日々。

中学2年生から始めたバレーボール。三京さんは中学時代、中国大会3位の成績とともに広島県選抜に選出、高校時代には、2度のインターハイ出場(最高ベスト8)、春の全国高校バレーボール大会にも2回出場(最高ベスト8)と、華々しい実績をあげます。

一方で、トップレベルの中学高校の選手といえども、プレイで伸び悩んだとき、スランプのとき、また、ケガをしたときなどに監督やコーチの方に必ずしも手を差し伸べてもらえるわけではなかった時代。当時、様々な壁を乗り越えるには、自分自身を頼るしかなかったといいます。

そんなとき、選手をサポートするスタッフの存在があれば、どれだけ救われただろう……。この経験から、三京さんは、**スポーツの裏方仕事の大切さとやりがい**に気づきました。

もともと、将来は人の役に立ち、感謝される仕事につきたいと考えていた三京さん。当初はスポーツ指導者を目指していましたが、高校からの進学を考えるころ、たまたま知った鍼灸の仕事に興味を持ち、IGLの鍼灸学科に入学します。

入学当初は、専門分野の授業に理解が難しい時もありましたが、同じクラスの社会人入学の方などに助けってもらいながら、乗り越えていきました。目的を持って入学した三京さん、**やったぶんだけ自分の身になる**と、IGLでは常に興味をもって楽しく勉強ができた、といいます。